

第1回宮古市立地適正化計画検討有識者会 議事概要

- 日時：令和4年10月13日（木）14：00～16：00
- 場所：宮古市市民交流センター1階 会議室
- 次第
 1. 開会
 2. あいさつ
 3. 報告
 - (1) これまでの取り組みと今後の予定について
 4. 宮古市立地適正化計画検討有識者会会長・副会長の選任について
 5. 議事
 - (1) まちの現状・課題と立地適正化の必要性について
 - (2) 追加調査について
 - (3) その他
 6. その他
 7. 閉会

〔参加者〕

有識者会委員：南会長、北原委員、屋井委員、姥浦委員、若江委員、多田委員、山崎委員、滝沢委員、伊藤（貢）委員、伊藤（重）委員、竹花委員、芳賀委員、藤島委員
事務局【都市計画課】：藤島部長、盛合課長、中野係長、田道主査、花坂主査、高屋敷主任
【（株）エイト日本技術開発】：松本、奥谷

事務局：次第4の「宮古市立地適正化計画検討有識者会会長・副会長の選任について」に進ませていただきます。本日は最初の有識者会ですので、規約に基づきまして会長及び副会長を互選により選出し、本日の議事に入らせていただきます。

事務局：会長及び副会長につきましては、事務局の案をご提案させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。会長に南委員、副会長に宇佐美委員をお願いしたいと思っております。皆様よろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

事務局：それでは会長を南委員、副会長を宇佐美委員をお願いしたいと思っております。南会長に一言ご挨拶をお願いしたいと思っております。

南会長：岩手大学の南です。宮古市においては、東日本大震災以降長い道のりを歩んできたこととなります。震災後にたてられた復興計画検討委員会の一員として参加させていただき、一方で研究フィールドとして2004年あたりからずっと携わらせていただけています。宮古市の行政としての動き、市民サイドの方々の動きを紡ぎ合わせながら歩んできた復興の経過を身近に見させていただいてきました。その中でも宮古市が復興計画をつくるときも、市民参画

を伴いながら進めてきたことをよく承知しております。今年の3月には新しい津波浸水想定が岩手県から出され、また9月には新たな被害想定が出されました。長い道のりの中にまた新たな立ち向かうべき課題ができています。そんな中で、この立地適正化計画を宮古市として未来を見て取り組んでいこうという姿勢に改めて深い敬意を表したいと思います。ぜひ良いものが出来ていけばいいと思います。それぞれの立場からのご意見を賜りまして、どうぞよろしくお願いいたします。

○質疑応答

(1) まちの現状・課題と立地適正化の必要性について

委員：公共交通徒歩圏と人口分布のデータに関して、凡例にある鉄道駅から800m、バス停から300mという取りまとめをしているが、地域公共交通網形成計画では鉄道駅からは1km、バス停からは500mとしている。どういう基準でまとめてマッピングしていくかを後で相談したいと思うので、参考までに800m、300mの考え方、根拠を説明いただきたい。

事務局：国交省から示されている資料に則った徒歩圏としている。地域公共交通網形成計画と違うことはこちらでも把握している。場合によっては、今回の調査の中で公共交通の中の徒歩圏人口を集計するという事も可能であるので、調整しながら進めたい。

委員：斜面や傾斜地など距離で測れないところもあるので、互いに情報を持ち寄りながら検討していきたい。

委員：土地利用の推移について、耕作放棄地が増えてそれが森林化しているということか。

事務局：グラフや図を見ると全体的には農地が減少している状況である。個別に検証している訳ではないが、全体としてはそのような傾向がみられると考えている。

委員：新築の動向について、震災からの復興に関連してH29とR3の建築確認申請とでは傾向が違うと思っている。市全体のマクロな動きと、ミクロな動きで分けてみるといいのではないかと感じた。交通との連携について重要だということはその通りだと思う。将来的に市街地を維持していくところ（居住誘導区域）の考え方は二つあると思っている。一つ目は駅周辺や中心市街地のような場所に限定して指定する考え方と、もう一つは、概ね現在の市街地に指定してこの範囲以外に市街地が広がらなければ良いというような考え方。どのような方針で指定していくのかということも今後考えていかなければならないと思う。また、交通との連携も重要だと思うが、土地利用と交通どちらが先にエリアを限定していくのか。その辺りの連動も考える必要があると思う。

事務局：建築の動向については、年度毎に整理することも可能であるため検討したいと思う。交通の方に関しても今後よく考えていきたいと思う。

委員：（資料4に関して）課題や必要性がどの地区もほとんど同じものになっているため、このままだと説得力のある計画ができていけないのではないかと。資料4の最後にある産業や観光など独自の視点を入れてしっかり考えていくことが重要ではないかと思う。

委員：重茂地区は所得が高い傾向にある。決して便利な場所ではないのに高齢化率が低い。こういったところを着目点として、データでなかなか読み取りづらいかもかもしれないが、その地域の中でどのような産業を発展させた方がいいのかなどの広がりも出てくると思う。また、市の特性として着目すべき区域の中に、閉伊川を入れてほしい。閉伊川をどのように活用

していくか、海だけではなく山や川にも着目していかないといけないのではと思う。

委員：データの整理のみでは地域の特性が消えてしまう。これからも住み続けていけるということとしっかりと定義してあげるような計画をつくっていかないといけない。地域の特性は調べていくとたくさんあるのではないかな。

事務局：今回の作業にあたっては、一つの整理の仕方ですべて統一していた。都市計画の居住誘導というのはどうしても一定のエリアに集めざるを得ないが、もう少し細かく着目してみてそれぞれのエリアの位置づけというのもしっかり検討したい。

南会長：各地区に個性があるので、それらを全体としてどのようにつなぎ合わせていくのかは大変な課題であるが、地区の特性に光を当てていくということは、大事なことであると考えている。

委員：(資料4に関して) 宮古市独自の計画を作成しようとしているが、環境や活力(産業・経済・若い世代の活躍・地域に根ざしたイノベーション)など、何か新しい項目(ワード)があると良いと感じた。土地利用や交通などとそれらを関連付けて一体的に取り組むとプラスに働くこともあると思う。そのような視点も是非取り入れてみては良いのではないかなと感じた。二つ目として市民の関心を集めることは容易ではないが、市民が自分のこととして受け止めてもらうことも課題だと思う。参考資料をみると市民からの的確な意見が出ているので、そのような意見を取り入れながら進めていくことも期待できると感じた。三つ目として、今年の6月に人口が減少していくなかで、持続可能な社会に向けては国全体で取り組む必要があるという趣旨の提言を土木学会で出しているのだから、良ければ参考にして頂ければと思う。

事務局：環境、経済、産業の今後についての現況まとめに関しては、取り組んでいきたいと思う。市民の意見についても大事にしながら進めていきたい。また、提言についても内容を確認して参考にさせて頂きたい。

委員：環境と持続可能なまちづくりの連携について、エネルギー需要の高い街区形成のようなものも必要なのではないかと思っている。面的なエネルギー導入やポテンシャルの高い地域など、エネルギーに関する視点も取り入れて検討していただければと思う。

事務局：本日の意見を参考にして、いろいろな分野についてまとめて取り組んでいきたいと思う。

(2) 追加調査について

委員：アンケートの対象について、高校生も含めてはどうか。

事務局：企画課で高校生を対象としたアンケートを毎年実施しているため、その内容を踏まえて、今回のアンケートの対象に高校生も含めるかどうか検討したい。

委員：若者に特化した施設について、高校生を対象にするのであれば場合、レクリエーション施設も選択肢に追加してはどうか。

事務局：高校生2年生を対象とした企画課のアンケートでは、宮古市への愛着、暮らしやすさについて聞いている。その結果の中でも、商業施設、娯楽に関して上位を占めている。既存のアンケートも確認しながら考えていきたい。

委員：アンケートの最後の自由回答について、もう少し居住やこれからのまちづくりについて詳細を聞いた方が書きやすいと思う。高校生アンケートのような細かい項目とした方が書きやすいかと思う。

事務局：ある程度具体的なことを聞く方が答えやすいということは確かにあるが、今の段階で踏み込んだことを聞くのは早いと判断して、全体としてどのような傾向にあるのかをつかむため設問を絞った。次の段階のアンケートやワークショップなどで確認できればと考えている。

委員：このアンケートが地域別課題とつながっていくのか不安である。宮古市全体として不足している生活サービスを聞いているが日常の生活圏で必要なものは違うと思う。徒歩に関する設問についても、地区毎に拠点からどの程度歩けるのかのような聞き方が必要ではないかと思う。

事務局：地域ごとに深掘りした内容を検討していきたいと思う。

委員：今の段階で聞くアンケートは現状の課題に関して補足しようというスタンスであると理解している。現在移動しにくい状況に甘んじていたり、簡単に変えられないと思ったりするなかで回答するため、意外と不満が出てこない可能性がある。宮古の中心部に関しては、昔からもう少し歩きやすい環境であるとか、多少緑を増やす環境とか、今はないがこういうふうに変えていけば住んでいる人の行動も変えられる可能性もあると思う。新しいイメージを伝えていかないと、現状だけから考えても変わらないと思う。アンケートを回答する側の意識やイメージが広がるような聞き方ができればいいと思った。

事務局：アンケートの聞き方など、イメージが湧くような聞き方を検討していきたいと思う。

(3) その他

事務局：特になし。

以上

